

解説と関連事項

1 (1) 【地図1】は「正角図」、【地図2】は「正距方位図」、【地図3】は「正積図」と呼ばれる図法でそれぞれ描かれた世界地図である。それぞれの図法のおおまかな特徴は次の通り。

	【地図1】 正角図	【地図2】 正距方位図	【地図3】 正積図
正しく描かれているもの	○大陸などの形 ○南北のみの方位	○中心からの形 距離と方位	○大陸などの面積
正しくないもの	×大陸などの面積（低緯度ほど小さく描かれる） ×南北以外の方位	×大陸などの面積や形	×大陸などの形

- (2) 条件の1つ目の“面積”を見るには、【地図3】を見る必要がある。インドより面積が小さいのは、モンゴル、ペルーのどちらかになる。条件の2つ目で、“東経”に位置しているのはモンゴルなので、アが正答となる。“東経・西経”“南緯・北緯”を地図で確認しておこう。
- (3) 【地図1】で考えてみると、東京はだいたい「東経140°・北緯35°」くらいになる。この東京の真裏であるAの地点は「西経40°・南緯35°」となる。この法則でいけば、クライストチャーチはだいたい「東経170°・南緯45°」なので、この真裏は「西経10°・北緯45°」に近い地点、ということになる。これに近いのはウのバルセロナ、ということになる。
- (4) イの文について、その国の主権がおよぶのは「領海」までで、排他的経済水域に主権はおよばないので、イは間違い。また、ウの文では、排他的経済水域では航行は自由なので、これも間違い。エの文で、領土の沿岸から12海里までは「領海」である。排他的経済水域は200海里までなので、エも間違いということになる。
- (5) 【地図1】からケープタウンは東経15°に近いので、日本の子午線である東経135°との経度差は、
 $135^{\circ} - 15^{\circ} = 120^{\circ}$ （ケープタウンと日本との経度差）
これを時差にすると、 $120^{\circ} \div 15^{\circ} = 8$ （日本との時差）
ケープタウンの時刻は、日本の時刻からこの8時間をもどすので、【地図1】から求めると、平成28年1月1日午前6時となる。
（ただし、実際の南アフリカの時刻は東経30°で決められているので、日本との時差は7時間となる。ただこの【地図1】からは読み取れないので問題としてはよくない。）

2 (2) 【資料3】からマレーシアでパソコンなどの生産が増加している理由を読み取る問題である。3つの◇の項目は、いずれも「外国企業がマレーシアに進出しやすくする条件」なので、このことを㊟に記入すればよいことになる。
また、【資料4】を見ると、日本・フランス・アメリカといった先進国の賃金が高いのに対し、マレーシアなどは賃金が安いことが読み取れるので、「マレーシアでは安い労働力を生かして生産できる」ことを㊠に記入すればよい。

3 (1) まず、【地図】や【自然環境】から、北部（舞鶴市）は「日本海側の気候」、中央部（姫路市）は「瀬戸内の気候」、南部（串本町）は「太平洋側の気候」を示していることが読み取れる。それぞれの気候の主な特徴は次の通り。

	日本海側の気候	瀬戸内の気候	太平洋側の気候
主な特徴	冬に降水量が増える。	一年を通して降水量は少ない。	夏に降水量が増え、冬は乾燥する。

- (2) ウの資料は、れんが造りの港町の様子や蒸気機関の外国船が見えることから、神戸市（㊟）と分かる。イは、海に多くの船が停泊している様子から、江戸時代に全国の物資が集まっていた大阪市（㊢）と分かる。消去法で、アは京都市（㊤）となる。（しかし、これについては、この資料だけで京都市と結びつけるのは難しい。問題としてはあまり適切ではない。）
- (3) 【資料1】では、歴史的な景観を守るために建物の家の形や色を“規制”していることが読み取れる。【資料2】では、外国人観光客が、その歴史的景観をめあてに京都市を訪れていることが読み取れ、【資料1】には、そのために歴史的な景観に補助金を出すなど、歴史的景観を観光に“活用”していることが読み取れる。この2点をまとめればよい。

4 (1)① 織田信長が行った主な内容としては、次の2点。
○ 楽市・楽座 …… 自由な商売をさせるための政策。そうすることで、領地内の景気を良くし、経済を活発にさせた。
○ キリスト教の保護 …… 南蛮貿易を通じて、利益を上げるようにした。そのためにキリスト教を保護した。一方で、一揆を起こす仏教をおさえこんだ。

(1)② 「太閤検地」は、全国を同じ基準で検地を行ったもの。「刀狩」は、農民から刀を取り上げることで、刀を持つ武士・刀を持たない農民という身分の区別、つまり「兵農分離」をすすめたもの。

(2) 参勤交代は、大名に江戸へ1年ごとに参勤させるもの。「大名の配置」から外様大名を江戸から遠隔地に配置しており、また「とりつぶされた大名の数」も外様大名が圧倒的に多いことから、幕府は参勤交代を通して、外様大名をおさえこもうとしていたことが分かる。

- 4** (3) 【資料2】では、耕地面積はゆるやかに拡大しているのに対し、石高は大幅に増加している。【資料3】では、その間に農具が改良されたことが示されていることから、農具の発達が生産高の増加につながったことが読み取れる。
- (4)① ききんの時代に百姓一揆が増えているので、ききんによって年貢をおさめることが厳しい農民が反乱を起こしたことを説明すればよい。
- (4)② アは、株仲間を奨励しているので、「田沼の政治」と分かる。イは帰農令と呼ばれるもので、「寛政の改革」の内容。ウは目安箱から「享保の改革」と分かる。エは5代将軍・徳川綱吉の政治の内容。江戸時代の改革をまとめたものは次の通り。

☆ 江戸幕府の主な幕政改革 ☆

幕政改革の名称	行った人物	主な改革の内容
	5代将軍 徳川 綱吉	・朱子学を奨励 ・「生類憐れみの令」が出される ・悪貨をつくり、物価が上昇
正徳の治	儒学者 新井 白石	・悪貨を改めようとしたが、失敗 ・長崎での貿易を制限
享保の改革	8代将軍 徳川 吉宗	・「公事方御定書」を制定 ・「目安箱」を設置 ・上米令を出す（大名への年貢引き上げ） ・有能な人物を採用
田沼の改革	老中 田沼 意次	・「株仲間」を認め、特権を与える ・長崎での貿易を奨励 ・干拓や開発をすすめる
寛政の改革	老中 松平 定信	・朱子学以外の学問を禁止 ・「棄捐令」で借金を免除 ・「帰農令」で都市に出ている農民を帰す
天保の改革	老中 水野 忠邦	・「株仲間」を解散させる ・「上知令」で江戸や大坂周辺を幕府が直接支配 ・「人返し令」で都市に出ている人々を帰す ・武士の借金を帳消しにする

- 5** (1)① アは、聖職者と貴族が平民の上に立っていることから、税金などの負担に苦しんでいるのは平民なので間違い。イでは、税を免除されているのは、聖職者と貴族であるので、貴族のみではないため、間違い。エでは、平民が聖職者や貴族と並んでいるので、平民の地位が変わっていないというのは間違い。
- (1)② ウは、欧米諸国が蒸気機関を持っているわけなので、アジアにそういった機械を“輸出”なら分かるが、“輸入”は間違い。
- (2) アは、「欧化政策」と呼ばれるもので、日本が欧米諸国に方を並べているということを示すために行ったもの。イやウは明治政府の「殖産興業」の一環で行われていた。
- (3)① 表の「教育」の部分の変化を見ると、江戸時代には武士・百姓と商人と身分によって教育機関が違っていたが、明治になると6歳以上の男女に教育できるようになっている。このことを㊦・㊧に記入すればよい。
- (3)② 表の「税制」を見ると、江戸時代には収穫高を基準にしていた税が、明治政府では土地の値段という天候などに左右されないものを基準に現金で納める税制になったことを説明すればよい。